

## 令和4年度 県立中央高等学校自己評価表

目指す学校像	・「『知 (virtue) 』の中央」として、地域住民や中学校から信頼される学校 ・自己を律し、主体的に行動し、何事にも挑戦し、創造する学校 ・誰にも公平に接し、豊かな心のふれあいができる学校				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
○成果 ・資格取得推進とICT環境の充実に努め、効果的な学習指導を行うことができた。 ・4年制大学に国公立大学4名を含む延べ85名、短期大学に11名、専修学校に83名の生徒が合格した。公務員試験に4名が合格するとともに、就職希望者24名が内定し、就職内定率は100%であった。 ・頭髮・服装・挨拶・言葉遣いなどの基本的な生活習慣が定着してきた。 ・運動部11部すべてが県大会（含むオープン参加）に出場した。文化部・同好会もcovid19感染予防に努めながら自主的に活動できた。	1 生徒の主体的な学習を促す授業による「学力」の向上	(1) 個々の進路希望に応じて適切な学習指導を行う。 (2) 指導法研究により、教員の指導力向上に努め、分かる授業を展開する。 (3) 生徒の資格取得を促し、学力向上を図る。 (4) ICTを活用し、より効果的な教育環境を整える。	B		
	2 生徒の多様な進路選択をサポートする個別指導の充実	(1) キャリア教育の充実に努め、個々の生徒に応じた進路目標を設定する。 (2) 課外指導や模擬試験の計画的実施とフォローアップにより、高大接続改革に対応できる学力の向上を図る。 (3) 進路ガイダンス、インターンシップ、大学見学会など進路実現に必要な体験の機会を多く提供する。 (4) 面談期間だけでなく、必要に応じ個別面談を行い、進路意識の把握、醸成を図ると共に進路情報を提供し、家庭と連携した進路指導を心掛ける。	A		
	3 生徒一人一人の自律を促す段階的指導の充実	(1) 頭髮・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的な生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実に努める。 (3) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。	A		
	4 ホームルーム活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進	(1) 企画・運営等では生徒の考えを重視し、生徒の自主性を尊重した学校行事運営を図る。 (2) 部活動の充実・強化を目指す。	B		
	5 働き方改革の推進	(1) 業務量の適切な管理のため、学校組織自体や各種委員会の在り方を改善を図る。 (2) 在校時間管理システムの適切な運用により、勤務時間の超過を削減する。	B		
○課題 ・分かる授業の展開 ・個々の生徒に応じた進路目標の実現 ・マナーやルールを守る意識の向上 ・運動部の7割以上で県大会出場を実現					
三つの方針		具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題	
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ・自己の将来ビジョンを自己の在り方生き方と関連して捉え、主体的に目標に向かって何事にも挑戦する生徒の育成	b	・具体的な将来ビジョンを調査・把握した上で、学年等における到達目標を設定するとともに、様々な学びの機会を提供 ・生徒の進路目標を踏まえた学力の定着と向上を目指した授業等における到達目標の設定 ・学校説明会や中学校訪問において、本校の期待する生徒像を明示するとともに、積極的な広報活動を推進	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ・多様な進路に対応した教育課程に基づく、基礎学力の向上とキャリア教育の推進	b		
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ・希望進路の実現に向け、学ぶ意欲と挑戦する積極性を備えた生徒	a		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語 ・基礎学力の向上	・家庭学習の定着を図るため、週末課題や長期休暇中の課題の設定を工夫をする。 ・自ら学ぶ力の養成を目指し、積極的にタブレットや電子機器を活用させる。 ・漢検の受験を奨励し、合格のための支援をする。	a b	・意見の共有や調べ学習などにおいてタブレットを活用させる機会を設けられた。活用の仕方を共有し、家庭学習の確立にもつなげたい。 ・書く力を伸ばすための指導と評価の工夫を検討したい。	
	・読書指導の推進と記述力の向上	・読書感想文課題や、図書館オリエンテーションなどを通して、本に触れる機会を増やす。 ・書く力を伸ばすために、授業中に要旨や考えをまとめさせたり、小論文模試を受験させたりする。	a b		
地歴・公民	・基礎学力の向上	・ICTを積極的に活用し、身近な話題や時事的な話題を用いた導入や発問、作業学習、問題演習等により、考える力と基礎学力の向上を図る。 ・成績不振者に対し、学習習慣の確立と基礎学力の向上のため補講（個別指導）や追試を実施する。	b b	・ICTを活用し、生徒の学習意欲の向上と基礎知識の定着に努めた。今後も効果的な活用方法を検討し実践していきたい。 ・より効果的な補講等の在り方について引き続き検討していきたい。	
	・受験指導の充実 ・評価の工夫	・大学進学希望生徒に対して計画的・効果的に課外授業を行い、学力向上を図る。 ・学習プリントやノートの提出、長期休業中の課題の提出等を通して、観点別評価の工夫を図る。	a a		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
数学	・生徒の実態に応じた指導計画の改善充実	・生徒の進路希望に応じた課外授業を展開する。 ・生徒の理解状況を把握し、生徒の取組を総合的に判断した評価に努める。理解の不十分な生徒には個別指導を実施する。	a a	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に応じ、個別に対応することができた。</li> <li>・数検の受験者を増やすことができなかった。生徒へのアプローチの方法など、来年度以降も検討していきたい。</li> <li>・学習習慣の確立までは至っていないので、引き続き取り組んでいきたい。</li> <li>・評価の改善については課題が残る年度となった。次年度に向けて評価と指導の一体化をさらに改善していく。</li> </ul>
	・基礎学力の向上	・授業中に発問を多くし、定期的に確認テストを実施することで、基礎学力の定着を図る。 ・数学技能検定の受験を奨励し、合格のための支援を行う。	a b	B	
	・家庭学習時間の確保	・宿題や週末課題を課すことで家庭での学習習慣を確立させる。 ・長期休業課題を通し、安定した学力を維持する。	b a	B	
	・評価の工夫と改善	・定期考査、宿題、長期休業課題、授業態度等を通して、観点別評価の工夫を図る。	a b	B	
理科	・多角的な授業の展開	・授業での生徒実験、演示実験の機会を増やす。  ・ICTを活用して授業を行う。	b  b	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の実験機材を導入し、ICTを活用した効果的な実験指導を目指す。</li> <li>・教室においても、さまざまな形でICTを授業に取り入れ、生徒の学習意欲の向上と基礎知識の定着に努めた。効果的な活用方法を引き続き検討し、実践していく。</li> <li>・各分野の進学希望者に対し、必要とする科目の個別指導を丁寧に行うことができた。より早い時期からの対応に努め、生徒の進路実現に今後もつなげていきたい。</li> </ul>
	・校外授業や放課後等の課外実験など、多様な学習形態を試みる。		a		
	・進学希望者への対応	・学年主体の課外の他に、個別で生徒対応の指導を行う。	a	A	
保健体育	・運動の楽しさの体験と生涯スポーツへの継続	・選択制の授業形態の充実や、生徒の技能段階に応じた授業工夫により、積極的な活動を促進する。	a	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の実技においては積極的な生徒が多く、運動を楽しみながら技能の向上に努めることができた。保健やスポーツ概論においても、ICT教材を活用し授業を行うことができた。</li> <li>・観点別評価において評価規準を定め、それに則って評価を行うことができた。</li> <li>・体力テストや健康診断などの結果を、いかに効果的に指導へ盛り込むかが課題である。</li> </ul>
	・運動をととした体力の向上	・体ほぐし、体作りの運動を効果的に取り入れ、筋力や持久力、柔軟性といった基礎体力を高める授業内容を実施する。	a	A	
	・評価方法の工夫	・観点別評価により、意欲、興味関心、技能などの面から評価を行い、それに基づく手立てを実践する。	a	A	
	・自己の体力の向上	・体力テストの結果により、自己の体力の特性を理解し、自ら改善の運動処方に取り組む姿勢を育てる。	b	B	
	・健康と安全についての総合的理解、健康の保持増進	・ICT教材を効果的に利用し、具体的な情報を得ながら、興味・関心を持たせるよう工夫する。 ・健康診断や身体測定の結果等から自分の健康状態を把握させ、健康処方を実践させる。	a b	B	
芸術	・＜音楽＞創造的で柔軟な発想力及び健全な芸術的判断力の養成	・コーラスや楽器による豊かな表現などを学び、音楽的な感性を磨く。 ・小アンサンブルによる活動に関心を持たせ、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、積極的に取り組む。	a a	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを活用し、目標を持って学習に取り組むことができた。</li> <li>・生徒の演奏を録画して鑑賞することにより、よりよい演奏のために必要なことやステージマナーについても考えさせることができた。</li> </ul>
	・＜美術＞基礎的な技能と芸術を愛好する心情や豊かな感性の育成	・素描や塑像などの基礎的な課題から創作技術の向上を図る。 ・絵画、彫刻、混合技法などの創作活動を通して芸術と生活の関連性を理解し、芸術を愛する心情を養う。	a a	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
外国語	・基礎学力の向上	・小テストを実施したり課題やノート提出を求めることにより、定期的に生徒の理解状況を確認しながら基本事項の定着を図る。	a	B
	・実践的英語力の向上	・家庭学習用の課題を与え、定期的に点検、評価に加えることにより学習習慣の定着を図る。	b	
	・生徒の実態に応じた指導計画の改善と充実	・授業や課外授業に、4技能をバランス良く育成する効果的な指導を導入する。 ・昨年度の英検受験者(3級19名、準2級17名、2級3名)を超えるように支援を行う。	a	
家庭 情報	・基本的な生活技術の習得及び実践的学習の機会の提供	・より効率的かつ効果的な学習となるよう、実習を中心に授業計画の見直しを行う。	b	B
	・評価方法の改善を図る	・ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して、より実践的・主体的な学習の機会を設ける。	b	
	・情報社会に参加する態度の育成	・実習時の活動の評価について適切な評価ができるよう、観点別評価を取り入れた評価表の作成を試みる。	b	
教務	・情報活用能力の育成	・コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信できるようにする。	b	B
	・情報活用能力の育成	・プレゼンテーション能力の向上を図るため、生徒間での発表等を頻繁に実施する。	b	
	・進路希望に応じた学習指導	・個々の進路目標表現に向け、適切な課外授業や個別指導を行う。	b	
進路指導	・分かる授業の展開	・分かる授業を目指し、教授法と評価の研究に力を入れ、教員の指導力向上に努める。	b	B
	・資格取得による学力向上	・漢検、数検、英検の資格取得を促し、成功体験と学習習慣を身につかせ、学力向上を図る。	a	
	・ICTを活用した教育環境	・教員と生徒が電子黒板やタブレット端末を活用し、効果的な教育活動を行う環境を整える。	a	
生徒指導	・図書館の有効活用	・研修への参加や、「図書便り」への執筆など、図書委員の自主的な活動を奨励する。	a	B
	・課外指導等の充実	・課外授業を充実し、学習習慣と学力の定着を図り、高い進路実現を目指す。	b	
	・インターンシップの充実と進路意識の高揚	・インターンシップを通して職業観の育成と自己の適性の確認を図る。	a	
保健指導	・進路指導内容の充実	・総合的な探究の時間等を有効利用する。	a	A
	・高大接続改革についての対応を充実させ、精選した最新の進路情報を提供する。	・高大接続改革についての対応を充実させ、精選した最新の進路情報を提供する。	a	
	・基本的な生活習慣の確立と安全安心な教育環境の整備	・定期的に頭髪・服装検査を実施し、高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。	a	
生徒指導	・ルールを主体的な遵守と公共のマナーや規範意識の向上	・さわやかマナーアップキャンペーンにおいて、生徒会役員や各学年生活委員及び保護者、地域住民、関係機関等と連携・協力して地域ぐるみで生徒たちを見守る体制を構築する。	b	A
	・関係機関との連携を強化し、いじめの未然防止、早期発見及び早期解消を図る	・毎週火・木曜日8時10分～30分、羽鳥駅から学校までの通学路における登校指導を実施し、生徒指導全般(安全な自転車運転、身だしなみ、挨拶の励行)を確認・指導する。	a	
	・健康診断の円滑な実施	・担任による面談指導を通して、マナーやルールを主体的に遵守できる精神の向上を図り、保護者との連絡を密にして、学校と家庭が一体となった円滑な生徒指導を行う。	a	
保健指導	・教育相談の充実	・全校生徒を対象に講演会(交通安全教室、薬物乱用防止教室、携帯電話安全教室、制服着こなし教室)を実施することにより、マナーやモラルなど規範意識の向上を図る。	a	B
	・健康診断の円滑な実施	・情報モラル教育を推進する。	b	
	・教育相談の充実	・いじめを早期発見するため、年3回いじめに関するアンケート調査を実施する。	a	
保健指導	・健康診断の円滑な実施	・警察、児童相談所、法務局等の関係機関との連携を図る。	b	B
	・教育相談の充実	・事前の連絡の徹底と円滑な診断のためのサポート体制を整備する。	b	
保健指導	・健康診断の円滑な実施	・担任との情報交換を行い、不適応生徒の早期発見・早期対応ができるようにする。	a	A
	・教育相談の充実		a	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
特別活動	・学校行事の充実	・学校行事に積極的・自主的に関わるように働きかけ、責任感・協調性の育成に努める。 ・各種行事の日程や実施方法の検討をし、より充実した学校行事を目指す。	b a	B A B	・歩く会とクラスマッチを、生徒会役員が中心となり運営した。 ・キャリアパスポートを学校独自のプリントで実施している。実施後検討し、生徒の実情に合った内容に改訂する必要がある。
	・部活動の充実	・部活動の様子や成果をHP及び中央たよりに定期的に掲載し、PRを図る。 ・壮行会・伝達表彰をし、部活の成果を発表する。	a b		
	・キャリアパスポートの活用	・生徒のキャリア形成を促進に向け、ホームルーム活動において、生徒の活動を記録し蓄積したキャリアパスポートを作成する。	b		
渉外	・各種行事の保護者参加率の向上	・PTA総会時に、3学年の進路説明会を開催し、総会への出席率が30%を超えるようにする。 ・行事開催の3週間前には案内を配付できるように計画をすすめる。	b b	B B	・PTA総会を3年ぶりに実施できたが、新型コロナウイルスの影響のため出席率は低下した。行事の見直しや運営方法を考える必要がある。
	・広報活動の活性化	・PTA会報「もにたあ」を9月下旬と2月下旬の年2回発行する。	b		
管理職	・各種委員会の在り方を改善	・委員会の存在意義の確認や構成メンバーの削減を検討し、実現する。	b	B B	・運営等を工夫し、働き方改革は図られたが、まだ改善の余地がある。 ・全体の勤務時間削減はできた。
	・勤務時間の超過を削減	・「きんむくん」の適切な運用により、毎月末に、超過勤務時間を確認し、振り返りを促す。	b		
事務	・学校財務マネジメントによる校内予算の管理	・校内予算を有効活用するには、学校目標や経営計画等に基づき、その課題を改善すべく予算執行することも重要だと考えられるため、その具体的方策について検討していく。	b	B A B	・予算管理・執行について、校務運営委員会等で幅広く意見を聞き、本校の課題改善に繋がる効果的な活用を心がける。 ・施設設備に係る事故等が発生しないよう引き続き日々の巡視等に努め、老朽施設設備等の整備・修理を進めていきたい。
	・茨城県予算の適正な執行	・公金を扱っているという認識のもと適正な事務処理を行うとともに、コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行に努める。	a		
	・施設設備の適正な管理	・日々の業務の中で事務職員と技術職員の連携を図り、修理箇所への対応を早期に実施する。学校施設設備による事故が発生しないよう校内巡視等を強化する。	b		
第一学年	・基本的生活習慣の確立	・高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。 ・規則正しい生活をし、しっかりとした学校生活を送れるよう指導する。	b	B B A B A	・高校生活に慣れてきたことで、基本的生活習慣の乱れている生徒が見られるようになってきた。また、新しい人間関係で悩む生徒もみられる。継続的な指導や支援をする必要がある。 ・進路意識の高揚に努める必要がある。 ・保護者との連携も継続していく。
	・基礎学力の向上	・授業を第一と考え、そのための準備を整え集中して臨むことにより、学力の向上を図る。 ・タブレット等を活用し、家庭学習を習慣化するための指導を徹底する。	b		
	・進路意識の高揚	・進路意識を高めるために進路講演会や出前授業・大学見学会を開催する。	a		
	・規範意識の高揚	・善悪の判断を正しくつけさせるために、継続的に指導をする。	b		
	・保護者(家庭)との連携	・保護者面談を充実させるとともに、保護者との連絡を密にし、情報の共有に努める。	a		
第二学年	・生活指導の充実	・挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう継続して指導を徹底する。生徒の長所や個性を把握し、悩みや問題を早期に解決するよう努める。保護者との連携を密にする。	b	B B A A	・来年度の進路実現に向けて、再度基本的生活習慣の見直しを図る必要がある。 ・スタディサプリ等を利用し、個に応じた学習指導を行うことができた。生徒たちの学習時間確保に努める必要がある。 ・部活動、修学旅行を行い、チームメイト、級友同士の絆を深めることができた。
	・基礎学力の向上	・すべての授業に積極的に取り組む姿勢を身に付けさせる。また、生徒の実態に合わせた課題に取り組ませることで、生徒の学力向上を目指す。課外を充実させるとともに、スタサブ等を活用することで更なる学力の向上を目指す。	b		
	・進路指導の充実	・進路講演会や出前授業、大学見学会等従来の進路行事を充実させることで、生徒の進路意識を高める。	a		
	・学校行事への積極的な参加	・部活動や修学旅行等の行事に積極的に参加させ、体験的活動を通して生徒のより良い人格形成を促す。	a		
第三学年	・キャリア教育の充実	・進路別LHRを有効に活用し、生徒それぞれの進路希望に応じた適切な指導を実践する。 ・進路指導部との連携を図り、生徒全員の進路希望を実現する。 ①大学・短期大学合格者80名以上を目指す。 ②各種専門学校や医療看護系専門学校合格・就職内定率100%を目指す。	a a	A B	・生徒の実態に合わせ、効果的に進路別HRを実施した。職員の協力のもと、生徒それぞれの進路実現のために、きめ細かなサポートをすることができた。 ・スタディサプリを活用し学力向上を図り続けたが、家庭学習や課外とどう結びつけるか、指導の方法に課題が残った。 ・実態に合わせて模擬テストを厳選し、保護者の負担を減らすことができた。
	・学力の向上	・大学進学希望者の家庭学習時間平均4時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導の工夫をする。	b		
		・平常課外や土曜課外、夏季・冬季休業中の課外への積極的な参加を促すとともに、最後まで学習に向かう姿勢を身に付ける。 ・目標値を設定したり、テスト後の解説を徹底し、模擬テストを有効に活用する。	b b		

※評価基準 a:十分達成できている b:達成できている c:概ね達成できている d:不十分である e:できていない